

～4か月頃の困り事～



なぜ起こるの？

生まれつき、または後天的にできる皮膚の色や形の異常です。成長につれ自然に消えるものと治療が必要なものがあります。

症状

赤いあざ



おでこや上まぶたにあるものは「サーモンパッチ」、うなじから後頭部にあるものは「ウンナ母斑」と呼ばれます。どちらも生まれたときからみられ、サーモンパッチは1～2歳で、ウンナ母斑は3歳くらいで目立たなくなることが多いです。

盛り上がるタイプは「乳児血管腫」と呼ばれます。生まれたときではなく、生後1～2週間して気づかれることが多いです。月齢とともにいったん大きくなりますが、その後は小さくなり、数年かけて自然と消えていきます。消えていく過程で、皮膚が寄って、あとが残ることがあります。

対応法

大きさや場所によっては、治療(飲み薬やレーザー)をすることがあります。主治医に相談してください。



茶色いあざ



まわりの皮膚よりメラニン色素が多いところが茶色くみえるあざです。これは「扁平母斑」といって、表面は盛り上がりません。大きさも様々で、心配ないものがほとんどです。

対応法

大きさが 1.5 cm以上のあざが 6 個以上ある場合は、主治医に相談してください。

青いあざ



おしりから背中にかけて、多くの赤ちゃんにみられます。これは「蒙古斑」といって、生後すぐから目立ち始めますが、4 歳くらいまでに消えることが多いです。

ただし、うでや足、お腹などにできる「異所性蒙古斑」は時間がたっても完全には消えないことがあります。

黒いあざ



小さいものがほくろで、大きいものが黒あざです。自然には消えませんが、小さいほくろは生まれたときにはなく、2~3 歳ころより目立ってきます。生まれつきあり大型で濃い毛が生えているものは「先天性色素性母斑」と呼ばれます。

対応法

治療が必要な場合がありますので、主治医に相談してください。

